

ひとまち

昭和の街に新しい風を

ひとまち

蓮馨寺周辺の、昭和のかおり漂う地域をご存知ですか。市の地区街づくり協議会の登録団体である「中央通り『昭和の街』を楽しく賑やかなまちにする会(=昭和の街の会)」は、このエリアで古くから残る町並みの保存や、地域の特色を生かしたイベント開催等の取り組みを行っています。



手動の機械で削ったかき氷も大人気

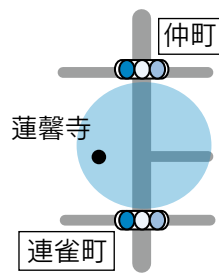


同会の会長・岩澤勝己さん(右写真)は、「通りができた昭和8年当時の建物のほか、特色がある店や町並み、人情が残っています。今後も看板建築の保存など、昭和の町並みを残していきたいですね。そして若い人たちにどんどん訪れてもらいたいです」と語りま



昭和の街の会

同会は、蓮雀町から仲町までの中央通りと立門前通り周辺で、地区の特色を生かした街づくりを行っています。市が情報提供などの支援を行う「地区街づくり協議会」の登録第1号の団体です。



す。また、同会では立ち止まって見てもらえるようにと11個の顔出し看板を設置。これは、「昭和の街に顔出して」という意味も込められた作品で、市内の大学生の協力により作成したそうです。おもてなしで街を盛り上げようと昨年から行われているのが「昭和の街の感謝祭」。今年は9月12日に行われました。天気にも恵まれ

た感謝祭当日、会場の蓮馨寺付近は、多くの人でにぎわいました。「親しみが持てて楽しいまちなので、よく訪れます」と話すのは、SNSを利用する家族から聞いてイベントを知ったという鈴木淳二さん(寺井)。お子さんの祥くん(4歳・左写真中段)は、初めてベীগオマを体験しました。感想を聞くと「戦いみたいで面白い。回すのは難しかったけどまたやってみよう」。

真剣な表情でかざぐるまを作っていたのは、台湾から旅行に来たという同級生4人組。「川越のことは、インターネットで知りました」と話します。かざぐるまが完成すると笑顔でカメラに向かってポーズを取ってくれました。

岩澤さんは、「多くの人に昭和の街を知ってもらえてよかったです。今後もより盛大に開催できるよう『レトロだけど新しい昭和の街』をPRしていきたいです」と気合たっぷり話してくれました。今も残る昭和のおおりは、SNSやインターネットとといった新しい風に乗って、地域や世代を超えた人たちに届けられています。